

事前質問事項一覧

■戦略2-1 「かかわれる農」のまちづくり

No	確認事項	回答	委員名	担当課
1	ここで表現しているマイクロファーマーとは	ここで表現している、マイクロファーマーは、副業で農業、半農半X、兼業・多業農家などの可能性のことを表現している。	近藤委員	産業振興課
2	R4の新規就業者数4とあるが農業の内容は	農業の内容については、露地野菜栽培が2名、施設・露地野菜栽培が1名、レンコン栽培が1名となっている。	近藤委員	産業振興課
3	農地利用集積の具体的な内容(地域・件数など)と規模は	市では、農業経営基盤強化促進法により、市内の農地や水田などを貸したい人と借りたい人との間に利用権を設定するための申請を受けている。 令和4年度の実績として、水田については12件 21,960㎡、畑(果樹園含む)については、26件70,090㎡であり、地域については、調整区域全般で広く行われている。	近藤委員	産業振興課
4	しろい梨ブランド化推進計画とは、生産者にはどのように周知しているのか	生産者には、梨業組合や梨観光組合の会議等にてブランド化について周知を行っている。販促物品(のぼり旗やポスター等)を直売所等に設置してもらい、消費者へPRを実施している。	近藤委員	産業振興課
5	耕作放棄地を市民農園として活用するとあるが、新たな開設や、また継続していく上でどんな点が問題となるか	新たに開設する場合、耕作放棄地であった場合は、耕作地とするまでの農地整備やその周辺の施設整備、継続していく上で、区画の募集や農地の維持管理などの問題点がある。	近藤委員	産業振興課
6	市民農園の利用状況は	現在市内に市民農園が2箇所あるが、どちらも区画全部が埋まっている状況である。	近藤委員	産業振興課
7	市民農園ではなく、個人で貸付けしている農家の存在へ存在を市ではどのくらい把握しているか	個人での貸付けは把握していない。 貸付けは申請が必要になるため、農業委員会を通じて行うように問い合わせがあった場合は指導している。	近藤委員	産業振興課
8	白井市では、農業の担い手、後継者不足というところで外国人労働者の受入れなどされているのですか	市が主体となり外国人労働者の受け入れは行っていない。	中原委員	産業振興課
9	[取組1]多様な形態の農業経営と担い手の支援平塚地区における地区計画(5年後、10年後農業を続けて行くか地区の話し合いに基づく計画)に係る話し合いの成果はどのようなものか。	平塚地区において実施した地域計画の座談会では、計面前の基礎となる地域の現状について、地域の農業者や担い手の方々と話し合いながら、耕作地の現状について確認を行った。地域の現状を知ること、どのようにすれば効率的かつ総合的に土地の利用ができるか、今年度中に策定する地域計画に取り入れるためのきっかけづくりができた。	宇賀委員	産業振興課
10	・取組2では、「民間の市民農園(2園)と記載があるが、なぜ2園なのかまち全体としての広報の必要がるのではないか。他の園を巻き込めない理由は何か。		手塚委員	産業振興課
11	・ブランド化については、だいぶ前から計画に記載があるが、ブランド化に対する計画(いつまでにブランド化するか)を建てないと、農業者の減少もあり、ただの計画で終わってしまうのではないか。梨農家は、ブランド化に対して反対なのか、ブランド化までやる気がないのか等、農家の現状を踏まえ、計画するのであれば年数を決める、またはブランド化の夢を諦めるのか、農家を巻き込んで、決める時期にきているのではないか。		手塚委員	産業振興課
12	・定量的評価でも計画で定めた基本方針やブランド展開が進展していないとあるが、「計画が当事者に浸透していない」のは、なぜか、その理由を踏まえた上で、この計画を進めるのか、課題があれば、課題を解決するための方策を考えなければ、ただの計画になってしまうのではないか。		手塚委員	産業振興課